

平成 29 年 2 月 20 日

長野市長 加藤 久雄 様

長野市ボブスレー・リュージュパークの在り方について  
提 言 書

長野市公共施設適正化検討委員会

委員長 松岡 保正



長野市においては、インフラを含む公共施設等の老朽化が進み、人口減少・少子高齢社会を迎える中、将来にわたり持続可能な行財政経営を行っていくため、市民合意形成を図りつつ公共施設マネジメントを推進しています。

公共施設適正化検討委員会は、本市の公共施設マネジメント推進を踏まえ、2018 年平昌オリンピック以後の「ボブスレー・リュージュパーク（愛称スパイラル）」の在り方について、昨年 11 月から審議して参りました。

ここに提言書をまとめ、提出いたします。

市民の関心も高いことから、この提言を踏まえ、早期に結論を出していただくことを期待します。

(提 言)

2018 年、平昌五輪後の「スパイラル」の在り方については、冬季の製氷は「休止」とすることが妥当と判断する。

ただし、施設は夏期の競技トレーニングに利用して存続し、長野オリンピックメモリアルとして地域の活性化に資する活用ができる方向で検討することが望ましい。

#### (提言の理由)

1998年の長野冬季オリンピック終了後、長野市はボブスレー・リュージュ競技会場であった「スパイラル」を20年間、競技施設として維持・管理し、オリンピック開催都市の役割を果たしてきた。

この間、国のNTC指定を受け、スパイラル友の会をはじめとする地元浅川地区の皆さんの献身的な協力を得ながら施設を維持してきたところである。

「スパイラル」は、競技の性質及び施設の特特殊性から、冬期の製氷等に多額の経費を要し、競技者数も限られているため、国の強化事業委託料を受けていても、利用者一人当たりにかかる経費が突出しており、また、市民による利用が難しい施設であることから、市民の受益と負担のバランスを考慮しなければならない。

また、施設建設から20年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、今後も施設を継続していくためには、大規模な改修や更新が見込まれる。

この点は、平成26年度の包括外部監査で「長野市の負担において当該施設を維持していくことは困難と判断される。市民に利用されていない施設を市民の税金により負担することは特に考慮すべき事項である」と指摘され、平成27年度に市が策定した「公共施設マネジメント指針」においても「施設の在り方について早急に検討する」としている。

加えて、長年アジアで唯一の競技施設であったが、韓国平昌に新たな競技施設が建設され、北京冬季オリンピックに向けた施設建設も見込まれる状況である。

平成26年の市民アンケートで「オリンピック施設の将来について」の設問に対して、全ての施設を出来る限り存続させるべきとの回答は3%と僅かであり、状況に応じて施設ごとに見直しを行うべきとの回答が9割を超えていた。

現状においても、施設の維持管理に多大な税負担が生じており、加えて、施設の老朽化に対応するための経費を想定すると、国内唯一の施設と言えども利用者の限られる競技施設を、市が今後も継続して維持することは市民の理解が得られないと考える。

なお、施設を全面的に廃止した場合には、コース撤去等に多大な費用を要することから、当面は、施設にかかる維持管理費を軽減しながら、夏期トレーニング利用のため施設自体は存続し、オリンピックメモリアルとして、幅広い市民の利用及び地域活性化に資する活用が図れるよう、地元浅川地区をはじめ関係する皆さんと一緒に検討していくべきと考える。

#### (審議経過)

平成28年11月24日 第18回公共施設適正化検討委員会

平成28年12月25日 第19回公共施設適正化検討委員会（現地視察）

平成29年1月19日 第21回公共施設適正化検討委員会

平成29年2月17日 第22回公共施設適正化検討委員会